

# 新入生オリエンテーションキャンプ

## 第一九回オリエンテーション キャンプを終えて

学 生 部

平成三年度オリエンテーションキャンプは、四月二七日(土)、二八日(日)の両日宮島包ヶ浦キャンプ場で行われた。新入生一、八三一名、留学生二名、フェロー一五五名、運営役員二〇〇名、教職員二一三名の総勢二、四〇一名という大規模なキャンプも、二日間とも晴天に恵れ、無事終えることができた。

このキャンプには、一月のフェロー募集に始まり、オープニング合宿、七回のフェロー講習会、リハーサルキャンプと、役員は勉強準備に約半年をかけている。しかし、新入生は、フェローや他の班員との顔合せ後、一週間で本番キャンプとなるため、準備が慌しく、例年体調をくずす者が多く、医務室が繁盛していたが、今回は開店休業に近い状況であった。これまでの反省から、新入生を迎える前に教官とフェローの話し合いの場を」ということで、各学部二名ずつ「オリキャン担当教官」を一月中旬までに選んでいただき、早期に話し合いの場が持て、教官とフェローの連携によるオリエンテーションという目的が、これまで以上に達成されたのではないかと思えます。

新緑の木々の下にテントを張り、寝食を共

にし、夜を徹して語らったこのキャンプで、新入生は広島大学の学生となった実感と連帯感を感じたと思う。ここで芽生えた自信と連帯感、これからも伸ばしつづけてもらいたいものです。

最後に、新入生諸君の大学生活が充実したものとなるよう祈念し、このキャンプを実施するにあたり、ご協力をいただきました関係者各位に深く感謝いたします。

### 「オリキャンに寄せて」

オリエンテーションキャンプ総局長  
総合科学部総合科学科四学年

甲斐 ゆかり

四月二五日、先々発隊で私は宮島にいた。深夜にもかかわらず準備を続けるスタッフ達の姿を見ながら、一年前のこの時、同じようにに彼らを見て、またオリキャンをやるうと決意した時の事を思い出した。

私はそれまで、学生というものは無気力無個性でひたすら無難に与えられた事をこなして過ごしているのだ、そういう存在なのだという、半ば投げやりな気持ちを持っていた。周りの友人に対しても、自分自身に対しても、ところがそこで働くスタッフの姿には、そんな雰囲気はみじんも無かった。皆、ほこりと睡眠不足とで目を真っ赤にしながら、疲労と戦いながら、笑顔で働いていた。その時私はこんなに素晴らしい場を無くしてはならない、自分の事でなく人の事に、しかも直接感謝や

ねぎらいの言葉を掛けてもらうこともないだろう新入生の為に、ここまで懸命になることの出来る場を無くしてはならない、来年もそんな彼らの姿を見たい、そう強く心に思ったのである。

今年の開村式の挨拶で私は、「ここは宝島です」と言った。新入生にとって、広大の構成員にとって、そして何より共に走って来たスタッフにとって、限りなく青い空と海を持ち、笑顔と涙と感動に溢れたあの場所は、宝島以外の何者でもないと思う。

宮島を出る最終便でのスタッフの姿、波のうねり、言葉と失われた広大生達のパワーを、私は決して忘れない。それら全てが私の掘り当てた宝物だ。

### 準備役員として

#### オリキャンに参加して

総合科学部総合科学科二学年

北村 綾乃

宮島でのあの週末から約一ヶ月がたとうとしている、五月二三日。新入生の新しい生活を突然おそった「オリキャン」の嵐もおさまり、終わったら、それ以前の日々の反動で廃人のようになつてしまったスタッフの方々も、普通の人としての生活を取り戻しつつある今日この頃、私はまだオリキャン部屋にきている。決して習慣などではない。残務処理がまだ終わってないからである。TAPのカメラ担